

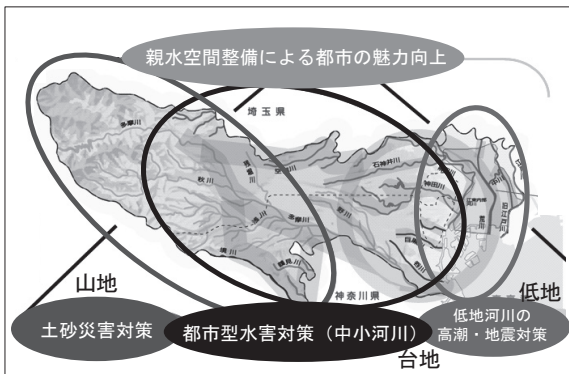
《各県コーナー》

東京都総合防災訓練と水防活動

～都民の防災意識向上のために～

.....東京都建設局河川部防災課

1. はじめに



東京都の河川

東京都は、多摩川に沿って東西に長く開けており、西から山地、台地、低地の3つに大きく分けることができ、また、鳥しょ部も所管しています。

それぞれの地形状況に応じ、①東部低地帯における高潮・地震による水害対策、②区部や多摩部の中小河川における洪水による水害対策、③多摩地域、鳥しょ地域を中心とした、土砂災害を防止するための砂防事業、高潮・波浪などによる海岸の浸食を防止するための海岸保全事業を行っています。また、多自然川づくりや水辺の緑化など、人々が集い、憩える、うるおいのある水辺環境を創出しています。

ここでは、東京都が先日行った防災訓練及び日頃から取り組んでいる水防活動など、ソフト対策について紹介します。

2. 平成23年度 東京都総合防災訓練

東京都では、都民の防災意識の高揚、災害発生時の応急対策に関する確認・検証、防災関係機関の相互連携の強化を目的として、毎年、総合防災

訓練を行っています。例年、防災の日や防災週間などに訓練を実施していましたが、今年度は東日本大震災の災害対応により延期し、10月29日(土)に都立小金井公園(小金井市関野町他)等で実施しました。

訓練には、警視庁、東京消防庁、自衛隊、他県市の消防、在日米軍、台北市などの消防局救助隊も参加し、地元住民や見学者も含めると約1万5千人が参加しました。

今回は、東日本大震災の教訓を踏まえ、下記の想定で、参加者に事前に訓練内容を知らせない「ブラインド方式」を取入れ、防災機関の連携による救出救助訓練や市職員及びボランティアによる救急支援物資搬送訓練を行いました。また、中央区晴海地区等では、地震津波に備えた水門・陸こう閉鎖及び住民避難など、緊急時の対応力を試す訓練を実施しました。

総合防災訓練における想定地震

	都立小金井公園訓練	東京港臨海部訓練
震 源	多摩直下	相模湾
震 度	6弱以上(多摩郡)	5強～6弱(区部)
地震規模	M7.3	M7.9
津波想定	—	1.5～2.0m程度

3. 河川関係部所実施訓練

東京都における河川関係部所(河川部、北多摩北部建設事務所、北多摩南部建設事務所、江東治水事務所)では、都民の防災意識の向上及び、緊急時対応力の向上を目的として、都市型水害に対する「水防工法等体験訓練」や「水門等閉鎖訓練」等を実施しました。また、国土交通省関東地方整

《各県コーナー》

備局の協力により、国内に1台ずつしかない「降雨体験車」及び「自然災害体験車」による体験訓練を実施しました。

その他、道路関係部所では道路啓開訓練を、公園関係部所では公園内防災施設（災害用トイレ、かまどベンチ）を使用した訓練を実施しました。

【土のう・水のう積み体験訓練】

水害時に役立つ水防工法（土のう作り、積土のう工など）を体験してもらいました。



スコップを上手に使って土のうを作成



20kgもある水のうを協力して設置

【水圧扉体験訓練】

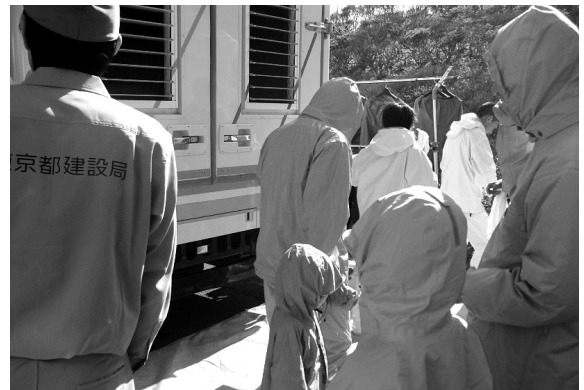
地下室などが浸水した際、水圧によって扉が開閉困難になる状況を体験してもらいました。



水深50cmでは2人がかりでも中々開かない…

【降雨体験、自然災害（土砂災害）体験】

降雨体験車は、弱い雨から1時間に100ミリという猛烈な雨を体験できるものです。集中豪雨の凄まじさを、約260名の都民が体感しました。



カッパを着て準備万端!!



時間100ミリの雨を体験中

《各県コーナー》

自然災害体験車は、迫力ある 3D 映像で土砂災害を体験するものです。座席の振動や音の相乗効果によって、よりリアルな土石流を、約 320 名の都民が体感しました。



自然災害体験車に並ぶ長蛇の列

【雨量計・水位計展示】

実物の雨量計・水位計を用い、降雨量と河川水位の測定方法について展示し、測定の実演を行いました。河川部では、都内に 98 箇所の雨量計、103 箇所の水位計を設置しています。



雨量計のしくみをじっくり観察

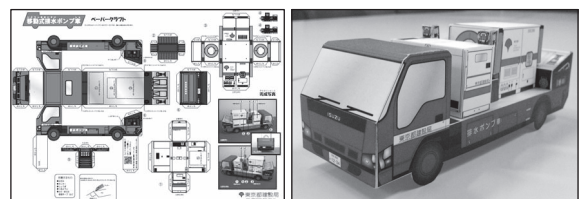
【排水ポンプ車展示】

河川からのいっ水や内水排除に使用する、移動式排水ポンプ車を展示しました。排水ポンプ車は、東京都の各建設事務所に 1 台ずつ、計 10 台配備しています。



排水ポンプ車を展示

また、子ども向けに排水ポンプ車のペーパークラフトを作成し、配布しました。



ペーパークラフト

【水門等閉鎖訓練】

地震発生および津波警報発表を想定し、都内に設置している水門・閘門の閉鎖訓練を行いました。

さらに、国土交通省江戸川河川事務所、荒川下流河川事務所、東京都港湾局などの関係機関と、水門・閘門の開閉状況について情報伝達を行いました。



水門閉鎖を水防災総合情報システムで監視
(河川部水防災対策室)

《各県コーナー》



水門閉鎖中（旧江戸川・新中川 今井水門）
（江戸川区地内）

【水上バス乗客輸送訓練】

都所有の水上バスは「東京水辺ライン」として隅田川を中心に運航しています。今回は水上バスが東京湾を航行中、津波警報が発表されたことを想定し、乗客を一番近くの防災船着場で降ろし、安全な場所に避難させる訓練を行いました。



一番近くの防災船着場（隅田川右岸）で下船
（中央区地内）

4. 日々の水防活動

河川部では、大雨、洪水、高潮などによる水害や土砂災害の危険から、都民の命と暮らしを守るため、雨量や河川の水位情報の提供等ソフト対策を行っています。

【24時間365日の監視態勢】

河川部では、気象注意報・警報等の発表時、迅速に初動態勢を確立できるよう、平日夜間及び休

祭日には、夜間水防連絡員を配置し、24時間365日、気象情報や河川水位、雨量を監視し、関係機関への情報伝達等の業務を行っています。

平成23年の水防態勢及び発表情報は以下のとおりです。

平成23年の水防態勢状況（1月から10月末まで）

		回数
態勢	警戒配備態勢	10
	連絡態勢	56
情報等発表	水防警報発表	3
	はん濫警戒情報発表	1
	土砂災害警戒情報発表	6

【雨量・水位等の観測・監視】

河川部では、以下のシステムを使って、雨量や河川水位等の監視及び関係機関への情報伝達等を行い、被害の軽減に努めています。

・東京都水防災総合情報システム

当システムは、雨量、河川水位、潮位などの観測データを、リアルタイムで自動収集、データ加工して地図上や表形式で表示するほか、河川の映像データを表示・録画しています。その他、水門の開閉、排水機場のポンプ稼働状況も確認ができます。

・洪水予報発表システム

都の洪水予報河川における雨量・河川水位データをもとに水位予測を行い、その結果により洪水予報を気象庁と共同発表します。

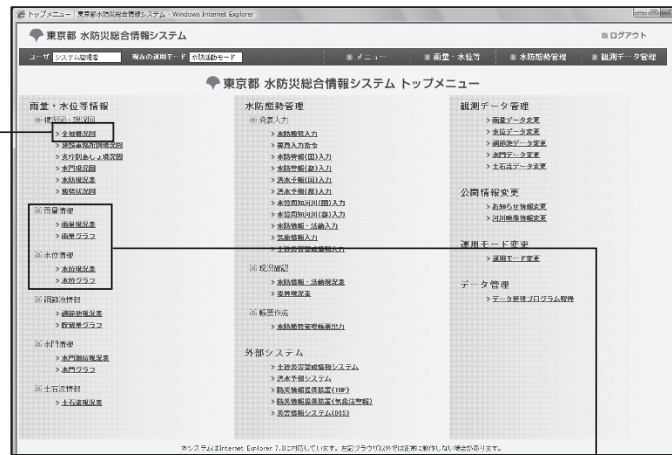
・土砂災害警戒情報発表システム

土壌雨量指数と60分間積算雨量を計算し、2時間以内に土砂災害発生危険基準を超えると予想したとき、土砂災害警戒情報を気象庁と共同発表します。

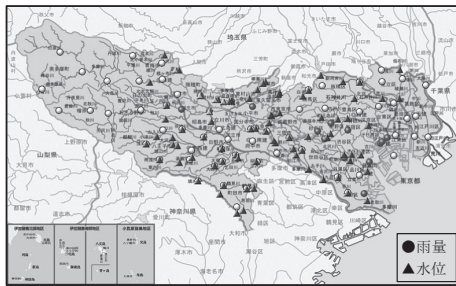
【雨量・河川水位等の公開】

都内の雨量・河川水位情報、気象注意報・警報、洪水予報、土砂災害警戒情報など水防に係る情報については、「東京都水防災総合情報システム」のwebサイトで一般公開し、リアルタイムで現況を確認することができます（次頁URLか

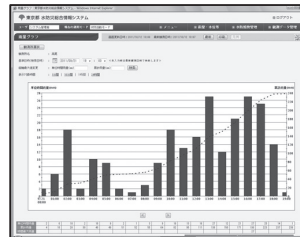
《各県コーナー》



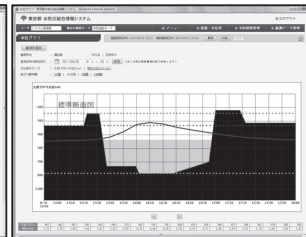
東京都水防災総合情報システム トップメニュー



都内現況図 (雨量・水位)



雨量監視画面



水位監視画面

ら接続可能)。また、雨量や河川水位を表示するときは、雨量の増加、水位の上昇に応じて、[青→黄→赤]と表示色を変えるなど、都民にもわかりやすい情報となるようにし、都民の「自助」につながるような情報提供を行っています。

5. おわりに

東京都では、東日本大震災においても隅田川の管理用通路に一部クラックが発生した程度で、その後、台風12号や15号、集中豪雨に見まわれましたが、10月31日現在、幸いにも河川における公共土木施設の被害は発生していません。

被害の甚大な他県へできる限りの支援を行っています。道路・河川等の災害復旧事業を推進するため、宮城県、岩手県及び福島県へ都建設局から延べ19名の職員を派遣し、陰ながら応援しています。派遣職員は、その地で貴重な体験をしており、その経験が、今後東京都で災害が発生した際に、必ず役立つものと考えています。



東京都水防災総合情報システム web サイト

水防災総合情報システム HP

パソコン版
URL : <http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp>

水防災

携帯版
URL : <http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/k/>



(QR コード)